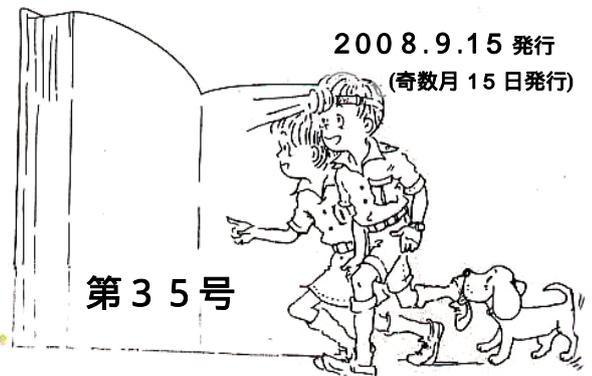


にのみやまちとしょかん 図書館だより

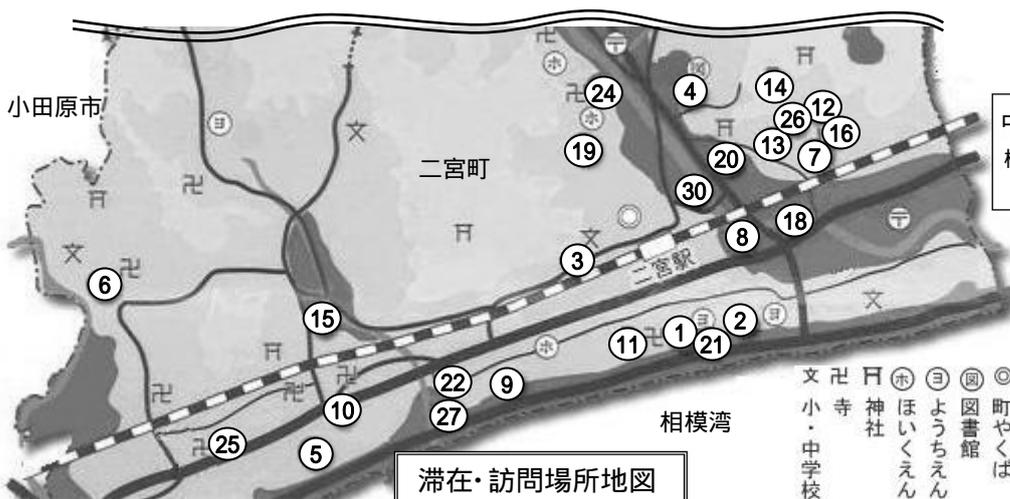
第 3 5 号



特集 二宮ゆかりの人物総まとめ

「二宮ゆかりの人物」コーナーでは、これまでに 30 人のゆかりの人物をご紹介しました。今回の特集では、その 30 人のゆかりの人物を滞在・訪問場所別のリストと地図にまとめ、一覧でご紹介します。

滞在・訪問場所 / 地区	地図番号	ゆかりの人物 (特は特別ウケウ)	肩書き	二宮関連ワード	滞在期間 (年・月) (M:明治 T:大正 S:昭和 H:平成)	掲載号	
< 二宮 >							
上町	1	山川 方夫 特	作家	疎開、梅田晴夫、吉田五十八	S19.8 ~ S40.2	4,5 号	
上町	11	市川 三升	歌舞伎役者十代目市川團十郎	転地療養、宮尾登美子『きのね』	S30.10 ~ S31.2	15 号	
上町	21	羽仁 もと子	教育者、女性記者	友情庵	S26 ~ S30	25 号	
上町	30	北村 薫	作家	吉田屋、『私と円紫さん』シリーズ	S44 頃	34 号	
中町近辺	2	窪田 空穂	歌人、国文学者	『二の宮町の海岸』	S11.9 ~ S11.11 頃	6 号	
中町	8	坂口 安吾	作家	二宮の魚屋、『真珠』	S16.12	12 号	
下町	7	原 三郎	元オリビック・トイト代表	二宮勤労者会、『オリンポスの果実』	S19 ~ S62.1	11 号	
下町	12	梅田 晴夫	脚本家、収集家	疎開、母玲子実家別荘	S16 頃 ~ S30 頃	16 号	
下町	16	原 石鼎 特	俳人	疎開、『鹿火屋』、知足寺	S16 ~ S26.12	20 号	
下町	18	伊達 時	湘南馬車鉄道初代社長	二宮駅、湘南馬車鉄道	嘉永 2.10 ~ T5.10	22 号	
下町	26	塩崎 彦市	徳富蘇峰記念館設立者	徳富蘇峰記念館、蘇峰堂	S21 ~ S53.11	30 号	
元町北	4	大佛 次郎	作家	園芸試験場、『相模半次郎伝』	S38.12 神奈川新聞掲載	8 号	
元町南	13	柴野 拓美 特	SF作家、翻訳家、評論家	図書館開館 30 周年記念行事	S52 ~	17 号	
元町南	14	古田 晁	筑摩書房創業者	二宮町に本の寄贈	S38 ~ S48.10	18 号	
元町南	19	吉田 五十八	建築家	疎開、吉田五十八邸、山川方夫邸	S19 ~ S49.3	23 号	
元町南	20	武林 無想庵	作家、翻訳家	宮田文子	T11.4 ~ T12.9, S5.4 ~ S5.10	24 号	
元町南	20	宮田 文子	文筆家、新聞記者、女優、デザイナー	実家、武林無想庵	T11.4 ~ T12.9	27 号	
元町南	20	高橋 新吉	詩人	武林無想庵	T11 ~ T12	32 号	
元町南	24	相馬 翠	医師	知足寺、相馬医院	T7.8 ~ H15.2	28 号	
< 山西 >							
梅沢	3	円地 文子	作家	疎開、巖松堂	S20.5 ~ S20.7	7 号	
梅沢	9	津田 信	作家	『結婚の構図』	S50.6 ~ S58.11	13 号	
梅沢	10	高木 敏子	児童文学作家	疎開、ガラスのうさぎ像	S19 ~ S20.8	14 号	
梅沢	22	松本 昇平	『二宮のむかし話』シリーズ著者	『二宮のむかし話』シリーズ	M39 ~ H11.10	26 号	
梅沢	27	棚橋 半蔵	日本サポテン界の先覚者	二宮仙人荘	M43 ~ T6	31 号	
越地	5	林 芙美子	作家	軍事保護院相模保育所、『うず潮』	S22.9	9 号	
釜野	15	杉田 つる	小児科医、歌人	軍事保護院相模保育所	S20.7 ~ S32.4	19 号	
茶屋	25	二見 利節	洋画家	アトリエ、二宮町に遺作寄贈	T12.11 ~ S1, S6 ~ S17, S22 ~ S51.3	29 号	
< 川勾・一色・その他 >							
川勾	川勾	6	阿川 弘之	作家	『なかよし特急』、『夜の波音』	S31 ~ S32	10 号
一色	一色	17	露木 卯三郎	米相場師、金融業者	露木騒動、『逢魔の辻』	天保 14.12 ~、M8・9 頃 - M17.5	21 号
その他	(二宮)	-	鮎川 哲也	作家	『二ノ宮心中』	S33.10 雑誌旧『宝石』掲載	33 号



大磯町

二宮町図書館ホームページの地域資料のページには、人物地図や一覧表のほか、滞在期間が一覧できる年表なども随時更新して掲載しています。そちらもどうぞご覧ください。

新しく入った本 CD DVD

2008年7～8月新着分より

(著編者/出版社/出版年月/請求記号)

本

画像
なし

『信じるチカラ』

(小松成美/ポプラ社/07.12/281.0 ㊦)

各界の頂に立ち自己を表現している人たちの困難をのりこえるエネルギーの源とは……熱い情熱と何かを「信じる力」を持ち続けること。16人のプロの生き方を紹介。

画像
なし

『極上葡萄酒談義』

(近藤聡/プレジデント社/08.3/596.7 ㊦)

古い洋画のワンシーンが思い浮かぶようなワインに関するエッセイ集。著者のイラストや、ワインラベルも美しい。ワインに詳しい人も、そうでない人も楽しめます。

画像
なし

『今さら聞けない科学の常識』

- ころおぼえを解消する102項目 - 』

(朝日新聞科学グループ/講談社/08.6/404 ㊦)

意外と多いころおぼえ。正確に説明するのはちょっと……かといって「常識」と思われている内容であればあるほど人に聞けないものですよ。懇切丁寧な解説が満載です。

画像
なし

『モディリアーニの恋人』

(橋本治・宮下規久朗/新潮社/08.3/723.3 ㊦)

夭折の画家モディリアーニ。その後を追った妻ジャンヌ。新たな資料を交え、通説とは違った視点から二人の生涯を辿る。モディリアーニ作品を所蔵する国内美術館情報も掲載。

画像
なし

『つい口に出る「微妙」な日本語』

- その言い方は他人にどう聞こえているか - 』

(浜田秀彦/ソフトバンクエディターズ/08.3/809.2 ㊦)

日常会話で頻繁に使われ、自分でも使ってしまう変な言い回しに心当たりはありませんか? 「人のフリ見てわがフリ直せ」日本語ってむずかしいですね。

画像
なし

『ラルフ・イーザウの宇宙』

(酒寄進一/長崎出版/08.4/940.2 ㊦)

ドイツのファンタジー作家ラルフ・イーザウ。彼の生い立ちやインタビューを交え、作品の世界観を解説。ほかに講演録、エッセイ、ショートストーリーなどを収録。

録音 CD

画像
なし

『ベンチャーズ・プレイ・ザ・ベンチャーズ』

(ベンチャーズ演奏/53分/240 ㊦)

幻の名盤『ベンチャーズ・オリジナル・フォー』世界初のCD化です。さらにボーナス・トラック8曲を加えた決定的コレクション。エネルギッシュなサウンドをお楽しみ下さい。

画像
なし

『ウルトラセブンのすべて!』

(バンダイビジュアル/30分/K778 ㊦)

ウルトラシリーズ誕生から40年。M78星雲からやってきた救世主のすべてがわかります。ウルトラマン、タロウ、エースとあわせてお楽しみください。あなたのヒーローは?

展示テーブルから

9月の展示テーマ
翻訳者で選ぶ!

画像
なし

今月の紹介本

『翻訳文学ブックカフェ』

(新元良一/本の雑誌社/
04.9/904 ㊦)

ここ数年翻訳小説がなにかと話題になっています。『星の王子さま』『キャッチャー・イン・ザ・ライ』『カラマーゾフの兄弟』など注目を集める新訳が相次ぎ、古典新訳ブームといわれています。又一方では、翻訳者で作品を選ぶ人が増えている、というような状況もあります。今月はそんな話題の翻訳小説や、翻訳者のエッセイを集めてみました。

一冊ご紹介するのは『翻訳文学ブックカフェ』。柴田元幸氏、村上春樹氏など現在活躍中の翻訳家11人と著者との対談集です。作品や作家とのエピソードも大いに楽しめますし、語られる翻訳の醍醐味からは熱い想いが伝わってきます。作品も多数紹介されていますので、翻訳小説に親しむきっかけともなることと思います。

こどものほんコーナーから

おすすめの一冊

画像
なし

『とべバッタ』

田島征三作
偕成社
'88.7
E ㊦

躍動感ある絵の力強さが印象的な絵本です。小さな草むらで天敵におびえながら暮らす一匹のバッタが、決意して大空にはばたきます。その行動は、勇気と元気を与えてくれます。ぜひ、裏表紙のバッタの太い足を見てください。

二宮町図書館 講演会開催

2008年10月13日
(月・体育の日)
午後2時～
(4時終了予定)

ラディアン
ミーティングルーム2
にて

二宮と坂口安吾 ～この町を往来した近代作家たち～ 講師：金原 左門 氏 きんばら さもん

今年の図書館講演会は、昭和16年に二宮を訪れた作家、坂口安吾をはじめ、島崎藤村や北村透谷、山川方夫など、二宮や近隣地域にゆかりの深い作家を取り上げます。



講師紹介：1931年静岡県生まれ。中央大学名誉教授。二宮町史編さん委員顧問をはじめ、平塚市や小田原市などの市史編さんに携わる。現在、二宮町在住。

主な著書：

『坂口安吾と三好達治』夢工房/2001

『日本近代のサブ・リーダー』日本経済評論社/2005

他多数

坂口安吾(1906~1955)

小説家・エッセイスト。新潟県出身。純文学のほか、歴史小説や推理小説、エッセイなど、様々な作品を世に送り出した。小説『真珠』の中で1941年12月8日(太平洋戦争開戦の日)に二宮を訪れたことを描いた。

※ 申込み方法についてはp4をご覧ください

ベストオーダー

2008年7月～8月

※この期間に予約が多かった本です

【一般書 ベスト10】

- 1 おそろし／宮部みゆき
- 2 切羽へ／井上荒野
- 3 いっちゃん／畠中恵
- 4 風花／川上弘美
- 5 東京島／桐野夏生
- 6 時が滲む朝／楊逸
- 7 のぼうの城／和田竜
- 8 ホームレス中学生／田村裕
- 9 地の日天の海 上・下／内田康夫
- 10 闇の子供たち／梁石日

チュニック ふう～ん

現代の日本ではチュニックは主に女性用のカジュアルな上衣と位置づけられているが、語源は〈下着〉を意味するラテン語のチュニカ(tunica)。元来は古代ローマの男女に用いられた下着・胴衣あるいは内着で、ときには一種の表着として着られた丈長のシャツやブラウスのようなものだった。

二宮ゆかりの人物

戦中・戦後期 疎開と二宮

終戦から63回目の夏が過ぎました。このコーナーではこれまで30人のゆかりの人物をご紹介しましたが、今回はその中で疎開がきっかけで二宮に滞在するようになった7人に焦点をあて、関連資料の中からその理由が書かれた箇所を抜粋しご紹介いたします。

◆ **山川方夫(作家)** — 『最初の秋』山川方夫著より—
父につれられて、はじめてその「二宮」に行ったのは、昭和十八年のはじめだったと思う。疎開のため、すでに父はその海沿いの土地を買い、そこに家を建てることも決心していて、すべての手つぎは終わっていた。

◆ **高木敏子(児童文学作家)**
— 『ガラスのうさぎ 新版』高木敏子著より—
わたしと妹たちは、二学期の始業式にまにあうよう疎開した。神奈川県中郡二宮町という、半農半漁の町である。(中略)西山さんといって、この町では旧家で、おばあさんもお嫁さんも、それはほんとうによく世話してくれた。

◆ **吉田五十八(建築家)**
— 『建築家吉田五十八』砂川幸雄著より—
先ず和戦両用を考えた。(中略)しかも一番物資の豊かなところで、軍需工場のないところを探してみたら、二宮町がクローズアップしてきたのである。(中略)戦火をのがれるための避難所として建てた二宮の家は、夫人と二人だけでその後のほぼ三十年間を過ごす家になった。

ゆかりの人物	終戦時の年齢	昭和						
		15年	20年	25年	30年	35年	40年	45年
山川方夫	15歳							
円地好	40歳							
高木敏子	13歳							
梅田晴夫	25歳							
杉田つる	64歳							
原石鼎	59歳							
吉田五十八	50歳							

◆ **円地文子(作家)** — 『母・円地文子』富家素子著より—
私と母はすぐに二宮の祖母のところに行った。(中略)この家には、七月に軽井沢に再疎開するまで二ヶ月程暮らした。(中略)漁師のおかみさんが通いで毎日きて家事をやってくれたし、空襲も東京よりずっと穏やかだったので、母もやっと息を吹き返しのんびりしていた。

◆ **杉田つる(小児科医、歌人)**
— 『杉田つる博士小傳』石原兵永編より—
二宮は(中略)白砂青松といふが文字通りで砂浜も綺麗である。(中略)昨年こゝに国の施設として保育所が出来、東都で戦災に会った私が勤めることになったのは七月からであった。終戦一ヶ月前には、此相模湾から出入する米の艦載機のじうりんをうけ朝に夕に退避を余儀なくされた。

◆ **原石鼎(俳人)** ◆ **梅田晴夫(脚本家、収集家)**
— 『石鼎とともに』原コウ子著より—
梅田玲女さんは二宮の別荘へ避暑に出かけていたが一度遊びに来るように誘ってくれるので出かけてみた。(中略)実は話があつたと切り出され、うちの土地つぎきの下の土地(中略)が売りに出ている(中略)戦争の始まるのも日数の問題だし、先生も具合が悪いし、いっそ二宮へ移った方がよくないかと思う。自分も四人の子供の家族を東京から引揚げてこちらで住ませようと思う。

[注]梅田晴夫の母である梅田玲女(玲子)は、石鼎の門下で、石鼎の妻コウ子とは心許す間柄でした。文中の「先生」とは原石鼎、「四人の子供の家族」は梅田晴夫らのことです。

戦中戦後の同時期には、原三郎・松本昇平・相馬翠・二見利節らも二宮で過ごしています。詳しくは図書館だよりバックナンバーをぜひご覧下さい。

このコーナーでは、二宮にゆかりのある人物や文学作品等をご紹介します。ここで紹介された人物や作品関連の情報がありましたら、図書館までお寄せください。

お知らせ・お願い

特別館内整理休館のお知らせ

9月24日(水)～9月30日(火)の7日間、蔵書点検のため休館します。休館前の貸出の際、返却期限に変更がありますので、ご確認ください。休館中は、利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力をお願いします。

お願い 特別館内整理休館中の図書・AV資料の返却ポストへの返却はご遠慮ください。

神奈川新聞に掲載されます

毎週月曜日に連載中の「かながわ図書館めぐり 自慢のこの1点」に、二宮町図書館からの紹介記事が9月29日(月)に掲載予定です。記事で紹介された所蔵品の展示会も11月29日から神奈川近代文学館で開催される予定です。

雑誌の終刊のお知らせ

「かながわ風土記」は2008年7・8月号で終刊しました。

返し忘れの本などはありませんか？

夏休み中に図書館で借りた本など、返し忘れはないですか？次に借りたい方が待っている場合もあります。ご確認ください。

行事

くわしくはお問い合わせください。

9月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

11月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



ちいちゃいおはなし会
第2水曜日



おおきいおはなし会 小学生からおはなし会とおりがみあそび
第3土曜日



わらべうたであそぼう！
第3金曜日



雑誌のリサイクルコーナー
第4日曜日(9月は第3日曜日)

展示テーマ

8月 一般 / 『「中国」ってどんな国？』
児童 / 『課題図書＆小・中学生にすすめたい本』
A V / 『昭和のくらしと歌』

9月 一般 / 『翻訳者で選ぶ！』
児童 / 『恋のおはなし』

特設展示

7月・・・『第139回 芥川賞・直木賞発表』

8月・・・『赤塚不二夫さんをしのんで』

8～9月・・・『二宮町図書館講演会「二宮と坂口安吾」』

地域資料コーナー 展示ケース

7～9月・・・『二宮ゆかりの人物 原 三郎
～「オリンポスの果実」田中英光著より～』

10～12月・・・『二宮ゆかりの人物 古田 晁』

書庫の本紹介コーナー

7～9月・・・『ベストセラー小説 1976(S51)年～1988(S63)年』

10～12月・・・『芥川賞候補作品 ～1995年』

利用者の声 Q&A

Q：このレシート(資料確認票)の見方のポイントを教えてください。

A：本は請求記号の順に並んでいます。まずは請求記号を見てください。あとのポイントは以下の通りです。

資料確認票

- ! 背表紙が書名通りでないときもあります
- ! ページ数を見ると厚みがわかります
- ! 大きい本はその棚になれば最下段にあります
- ! まずはここを見る

請求記号: 498.5セ

二宮町図書館講演会

二宮と坂口安吾

～この町を往来した近代作家たち～

講師：金原左門氏(中央大学名誉教授)

日時：10月13日(月・体育の日)

午後2時～4時

会場：生涯学習センターラディアン

ミーティングルーム2

定員：80人(入場無料)

《お申し込み》

9月3日(水)9時30分から電話または図書館(1階カウンター)で受け付けます。先着順で定員になり次第受付終了。

ひとつだけ ～編集後記にかえて

北京五輪の女子ソフトボールに釘付けになった。決勝で三連覇のアメリカに勝利し見事悲願の金メダルを取った。球技では1976年の女子バレー以来の快挙、日本中が歓喜に沸いた。2日間で3試合完投413球の力投をし優勝に導いた上野投手には頭が下がる。日本の女性がこんなにかっこよく見えたことがあったらどうか。まさに強靭な心技体と血のにじむような努力の賜物。チーム一丸となって勝利し勇気と強さと夢を与えられた。次のロンドン大会では正式競技からはずれるが2016年の五輪ではぜひ復活を願いたい。

編集・発行 二宮町図書館

住所 二宮町二宮1240-10

☎ 0463-72-6913

ホームページ <http://www.ninomiya-public-library.jp/>

☎ 図書館だよりテープ版もあります！お問い合わせください。

